

# 授業概要

分野	学科目	1年後期		90分講義 22回 50分試験1回		
専門基礎分野	治療論 I	45 時間	2 単位			
授業科目		講師				
薬理学		大学講師、専任教員(実務経験者)				
科目 目標	1. 薬物の特徴や作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する。 2. 薬物の治療効果を高め、安全な与薬方法について理解できる。					
	回数	項目	内容			
科目 内容	1	薬理学の基礎知識	1.薬理学とは	3.薬物動態	5.薬と法律	
	2		2.薬が作用するしくみ	4.薬物相互作用		
	3	抗感染症薬	1.抗菌薬	2.抗ウイルス薬	3.真菌感染症治療薬	
	4	抗がん薬	1.抗がん作用のしくみ			2.がんに使用する薬
	5		1)がんの薬物療法に使用する薬 2)抗がん薬投与の実際 3)抗がん薬の有害作用とその対策			
	6	免疫治療薬	1.免疫抑制薬	2.免疫増強薬・予防接種薬		
	7	抗アレルギー薬・抗炎症薬	1.抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2.非ステロイド性抗炎症薬とステロイド性抗炎症薬			
	8	末梢で神経活動の作用する薬物	1.末梢神経系	2.中枢神経系		
	9	中枢神経系の作用する薬物	1)自律神経作用薬	1)催眠薬・抗不安薬		
	10		2)筋弛緩薬	2)抗てんかん薬 3)麻薬性鎮痛薬		
	11	心臓・血管系に作用する薬物	1.抗高血圧薬	2.狭心症薬		
	12		3.心不全治療薬 5.利尿薬	4.抗不整脈薬 6.血液に作用する薬物		
	13	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	1.呼吸器系(気管支喘息・鎮咳薬・去痰薬) 2.消化器系(消化性潰瘍治療薬・消化薬・制吐薬) 3.生殖器系(女性ホルモン関連製剤・男性ホルモン関連製剤)			
	14	物質代謝に作用する薬物	1.糖尿病治療薬	2.甲状腺疾患治療薬		
	15	救急の際に使用される薬物	1.心停止・ショックに対する薬物 2.急性中毒に対する薬物			
	16	与薬における基礎知識	1.薬物療法における看護師の役割		2.安全な与薬の理解	
	17		3.薬物相互作用 4.薬物使用の有益性と危険性		5.治療による薬の効果	
	18		6.与薬方法と薬理作用			
	19		1)経口的薬物療法	6)直腸内薬物療法		
	20		2)口腔内薬物療法	7)吸入薬		
	21		3)塗布・塗擦法	8)注射法		
	22		4)点眼法 5)点鼻法	(皮下注射、筋肉内注射、皮内注射、 静脈内注射、点滴静脈内注射)		
	23	試験	7.化学療法			
試験						
【授業形態】 講義						
【評価方法】 筆記試験、出席状況						
【テキスト】 系統看護学講座 薬理学 医学書院 系統看護学講座 薬理学 医学書院講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 ③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 今日の治療薬 南江堂						